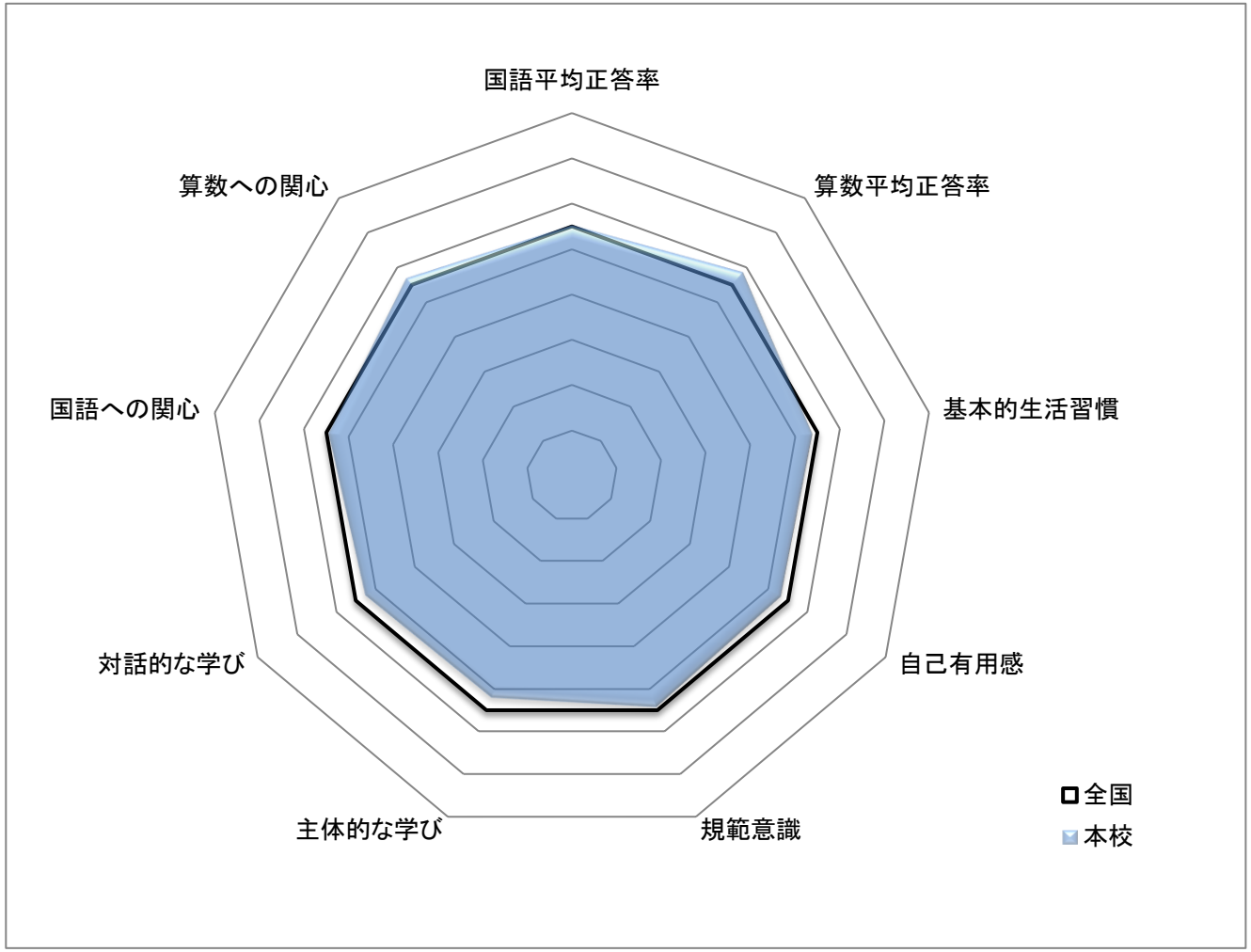
令和６年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

江戸川区立平井小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・全国の結果を１としてみた時に、平均的な様子が見て取れる。
・算数への関心、正答率については、全国の肯定的回答合計値を上回っている。
・主体的、対話的な学びに関する項目に関して、全国の結果より少し下回っている。

《現状把握》

・早寝、早起き、朝ご飯などの基本的な生活習慣は身に付いている児童が多い。
・「自分には、よいところがあると思うか」「将来の夢や目標を持っているか」という質問に対して、全国よりも５ポイント程度下回っている。
・主体的な学びについては、「当てはまる」と回答している割合は、全国よりも数値が高いが、「どちらかというと当てはまらない」と感じている割合がそれを上回っていることから、個人差があることが見受けられる。
・対話的な学びについては、学級活動での話し合いを通じて互いを認めたり、自分が努力すべきことを決めたりする活動が十分ではなかったことが考えられる。

《授業改善のポイント》

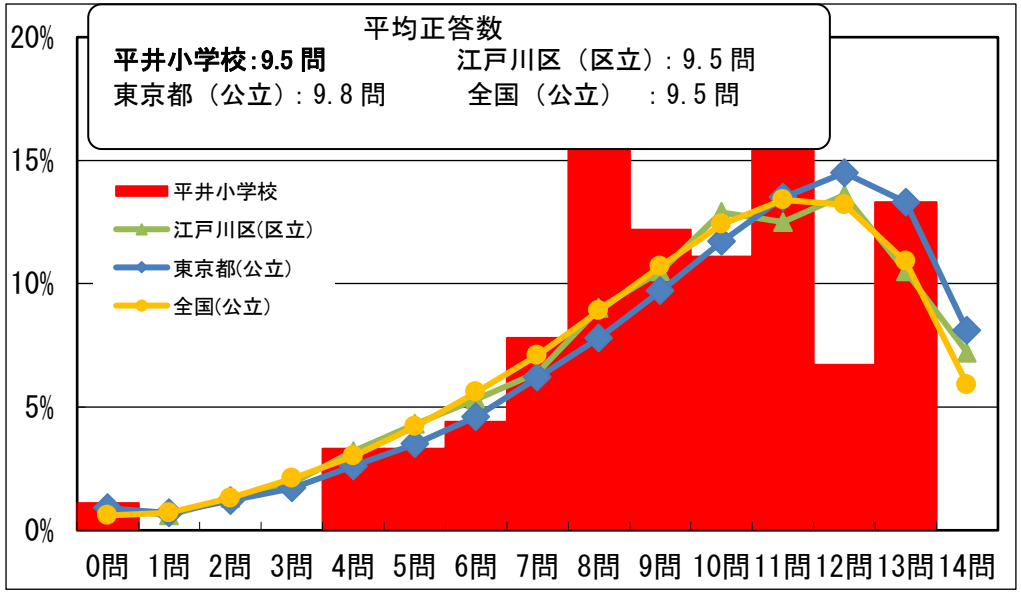
・主体的に学習に向かおうとする児童の割合は多いので、全体を引き上げていけるような雰囲気作りが必要である。そのためには、自分の意見を友達に伝え、互いに考えを深めたり、互いのよさを生かした解決方法を決めたり、自分のがんばることを一緒になって考えたりする活動を大切にしていく。
・国語に関しては、「将来、社会に出た時に役に立つ」と感じられるように、「知的活動の基盤」「感性・情緒等の基盤」「コミュニケーション能力の基盤」となっていることを実感させられるような工夫が必要である。
・算数に関しては、「勉強は大切だ」と感じられるように、児童にとって身近な場面と結び付けて考えさせるような工夫が必要である。

《家庭・地域への働きかけ》

・基本的な生活習慣は、ご家庭の協力なくして改善はしません。今後も子供たちの成長を温かく見守っていただきたいです。
・子供たちの規範意識は、近くの大人の姿を見て身に付くものです。大人が「困っている人がいたらすすんで声をかける」「いじめはいけないこと」と範を示していただけると子供たちはそれを真似します。
・子供たちのよさやがんばる姿を見付け、たくさん褒めてください。次もがんばろうとする意欲につながります。

令和6年度　全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】平井小学校

正　答　数　分　布



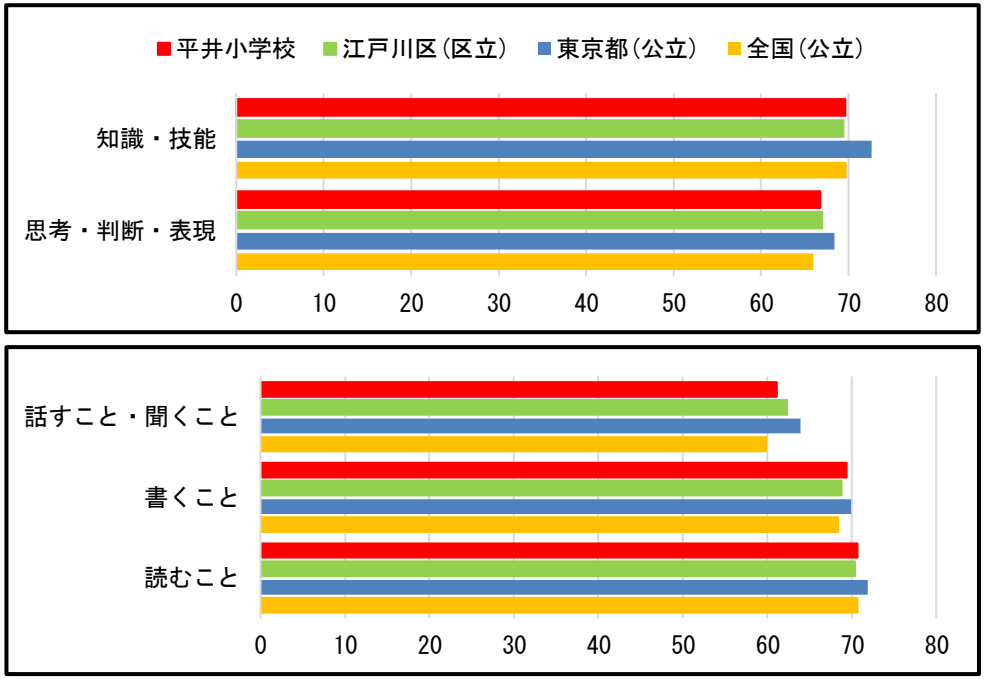
＜四分位における割合（都全体の四分位による）＞

上位 ◀――――――――▶ 下位

国　語	A層 12～14 問	B層 10～11 問	C層 8～9 問	D層 0～7 問
平井小学校	**24.4**	**26.7**	**28.9**	**19.9**
江戸川区（区立）	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都（公立）	35.9	25.2	17.5	21.4
全国（公立）	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の 1/4、2/4、3/4 にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

平井小学校	**68%**
江戸川区（区立）	68%
東京都（公立）	70%
全国（公立）	67.7%
都との差	**-2 ポイント**

%

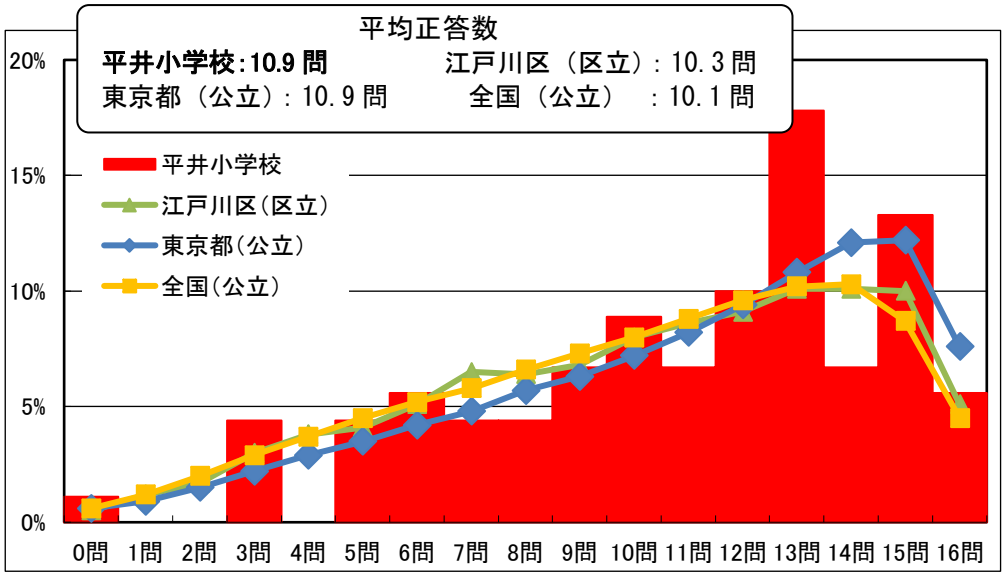
【分析結果と授業改善に向けて】

・苦手な領域として、「話すこと・聞くこと」における言葉の特徴や使い方に関する事項や我が国の言語文化に関する事項を問う問題が、区の平均を下回る結果となっている。引用や要約の違いについて丁寧に指導したり、正しい敬語をつかえるように普段の生活から意識させたりしたい。

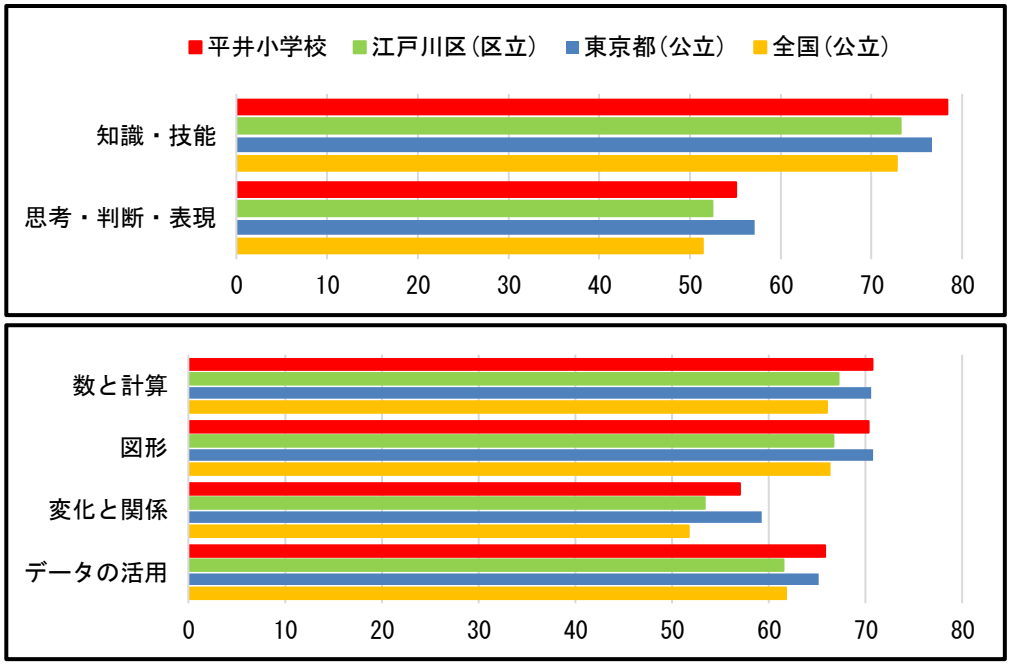
・「読むこと」領域では、区の平均は上回っているものの、都の平均は下回っている。文章が何を伝えようとしているか適切に捉えられていないと考えられるので、読書をすすんで行い、よむ YOMU ワークシートなどで大事なことを落とさず読める力を身に付けさせたい。

令和6年度　全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 平井小学校

正　答　数　分　布



「領域別」の結果



＜四分位における割合（都全体の四分位による）＞

上位 ◀――――――▶ 下位

算　数	A層 14～16 問	B層 12～13 問	C層 8～11 問	D層 0～7 問
平井小学校	**25.6**	**27.8**	**26.7**	**19.9**
江戸川区（区立）	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都（公立）	31.9	20.2	27.4	20.5
全国（公立）	23.5	19.8	30.7	26.0

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の 1/4、2/4、3/4 にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

【平均正答率の差】

平井小学校	**68%**
江戸川区（区立）	64%
東京都（公立）	68%
全国（公立）	63.4%
都との差	**0 ポイント**

【分析結果と授業改善に向けて】

・苦手な領域として、「B 図形」「C 変化と関係」における思考・判断・表現に関する力を評価する問題が、都の平均を下回る結果となっていることが分かった。特に「速さ」に関する問題について苦手意識をもっている児童が多く見受けられる。

・東京ベーシックドリルやミライシードを活用して復習に取り組ませていく。特に「速さ、道のり、時間」に関する単元について、５年生で学習する内容なので、現５年生にも丁寧に指導することを心掛けたい。

・「図形」に関する単元については、球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉えられるように、実物模型を活用した指導を行っていく。